

腱板大広範囲断裂に対する筋前進術の肩甲下筋腱断裂の有無による術後臨床成績の比較に関する後方視的検討へのご協力をお願い

京都九条病院整形外科では、肩腱板断裂の方を対象にした研究「筋前進術の肩甲下筋腱断裂の有無による術後臨床成績の比較」を実施いたします。そのため、過去に「関節鏡下腱板修復術」を受けられた方々の診療録等の情報を遡って調査させていただきたいと考えています。本研究の実施にあたり、京都九条病院医学倫理審査委員会の審査を受け、研究機関の長より適切であると承認を得ています。

研究の目的

肩腱板大広範囲断裂に対する修復法として筋前進術は術後良好な臨床成績と再断裂率の低下が報告されてきています。しかし、筋前進術の再断裂のリスク因子の中に肩甲下筋腱断裂を合併した症例などが報告されています。当院では、肩甲下筋断裂を合併した腱板大広範囲断裂に対して、筋前進術と肩甲下筋腱断裂を suture-bridge 法により修復した症例と肩甲下筋腱断裂を認めない、腱板大広範囲断裂に対して筋前進術を行った症例の術後臨床成績を比較検討し、筋前進術の有用性と、臨床成績に影響する因子を検討し、治療の妥当性を評価し、課題を洗い出して今後治療法の改善点とすることを目的としています。

研究の方法

2015 年 1 月から 2021 年 10 月までに関節鏡か腱板修復術を施行した症例のうち、2 年以上の経過観察が可能であった方を対象とします。また、診療録(カルテ)から以下の情報を取得します。

情報：性別、年齢、身体情報(身長、体重、血圧、可動域などの身体所見、問診票など)、病歴、家族歴、併存疾患、既往歴、嗜好歴、画像情報(X 線、CT、MRI など)、カルテ番号

個人情報の取り扱いについて

情報を扱う際には、個人情報とは無関係の記号を付し、個人を特定できないように匿名化します。外部への提供も行いません。個人情報管理者は研究責任者とし、収集

した情報は研究責任者のみがパスワードを知るコンピューター上のファイルに記録します。収集したデータは施錠可能な院内に設置し、研究責任者の責任の下、厳重な管理を行います。患者さんの情報などが漏洩しないよう、プライバシーの保護には細心の注意を払います。

お問合せ先

本研究への参加を拒否する場合はお申し出ください。参加を拒否した場合でも、治療や診断等において不利益が生じることは一切ありません。ただし、同意を取り消した時点で既に研究結果が学会や論文などで公表されている場合など、廃棄することができない場合があります。

研究責任者：京都九条病院 整形外科 関節・スポーツ整形外科部長

四本 忠彦 電話：075-691-7121